

徳島県環境白書の刊行に当たって

私たちが生活を営む上で、地球温暖化をはじめとする環境問題は今や避けて通れない問題です。生態系の変化、緑の減少や気温の上昇など、既に身近なところで環境の変化は起こっており、今のままでは、この美しい地球を将来に残していくことが困難になっていくかもしれません。

既に「待ったなし」の状況となっているこの地球環境を、私たち自身が生活していくため、そして何より、将来の世代に引き継いでいくために、私たちは最大限の力をもって保全していく責任があります。

2008年は、「京都議定書」の「第一約束期間」の始まりの年であり、また、7月に開催された北海道洞爺湖サミットにおいては気候変動問題が主要な議題として取り上げられました。このように我が国を取り巻く環境は、低炭素社会へと向かう流れが一層加速していくものと思われまます。

本県においても、県政の運営指針である「オンリーワン徳島行動計画（第二幕）」の中で、「環境の世紀」をリードする「環境首都とくしま」の実現を基本目標に掲げ、事業者・学識経験者・民間団体・行政機関等で環境活動を推進する「とくしま環境県民会議」を中心に「低炭素型交通システム」の構築に向けた社会実験、「徳島夏・冬のエコスタイル」や「レジ袋削減運動」の推進など、「意識啓発」の段階から「実践・行動」の段階へと、各種の積極的な取り組みを展開しております。

また、2009年4月には、事業者や県民など「あらゆる主体」の取り組みを促す拠り所となる、「中四国初」の「徳島県地球温暖化対策推進条例」がついに施行となり、これまでも増して、より実践的な取り組みを進めてまいりたいと考えているところでございます。

私たちが世界に誇れる「環境首都とくしま」を実現していくためには、県民・事業者・民間団体など各主体の取り組みが必要不可欠であります。本書を通じ、県民の皆様が本県の環境問題に対し認識を深めていただき、更なる環境保全活動を行うための一助となれば幸いです。

平成21年3月

徳島県知事 飯泉 嘉門

